

# 1. 大阪大学大学院理学研究科の沿革

本研究科は、1933年から旧制大学院学生を受け入れ、その教育・研究を開始した。1943年からは大学院特別研究生の受け入れも行い、1961年までに総計361名の大学院学生を教育し、旧制大学院の使命を果たした。1953年に、新学制による理学研究科が、数学系1、物理学系3、化学系2および生物学系2の計8専攻の構成で発足した。その後1963年に高分子学専攻が増設され、1966年に物理学系3専攻が物理学専攻に統合され、また1995年には宇宙地球科学専攻が新設された。さらに1996年から大学院重点化により、理学研究科は数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物科学専攻、高分子科学専攻、宇宙地球科学専攻の6専攻に再編成された。

本研究科の講義及び研究指導は、理学研究科の教員のほか、情報科学研究科、生命機能研究科、微生物病研究所、産業科学研究所、蛋白質研究所、レーザーエネルギー学研究センター、ラジオアイソトープ総合センター、遺伝情報実験センター、核物理研究センター、総合学術博物館などに所属する教員によって行われている。また、連携併任枠を使って、国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センター、株式会社ペプチド研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社JT生命誌研究館など、学外の研究機関からの、本研究科の研究と教育への参画も行われている。なお、大学院重点化に伴い、前期（修士）課程及び後期（博士）課程の入学定員は、それぞれ117名、59名から288名、140名へと大幅に増員されたが、2002年に生命機能研究科及び情報科学研究科が新設されたことにより、前期課程は258名、後期課程は126名と入学定員の改定が行われ、その後、2007年の大阪外国語大学との統合により、前期課程の入学定員は266名となった。

最近の科学の急速な発展に柔軟に対応しうる優秀な人材を育成するために、1989年に学校教育法施行規則が改正され、学部3年次から大学院に進学できる、いわゆる「飛び級」の受験が認められるようになった。本研究科は、これを直ちに実施し、1991年度に2名を合格させた。これは全国で初めてのことである。その後、2017年度までに35名の学生が3年次から大学院に進学している。

なお、2018年3月現在で新制度の理学修士の学位取得者は9,669名、理学博士の学位取得者は3,616名（うち、課程博士2,800名、論文博士816名）である。また、旧制度の理学博士の学位取得者は621名で、この中には湯川秀樹博士も含まれている。

付 表（平成30年度）

		理 学 研 究 科						
専 攻		数 学	物 理 学	化 学	生物科学	高分子科学	宇宙地球科学	計
入 学 定 員	前 期	32	68	60	54	24	28	266
	後 期	16	33	30	23	11	13	126